

## 特集：〈桜プロジェクト〉

### 始まりから植樹までの記録

松本 幸恵

#### はじめに

2014年6月、深町正信院長、西田哲也法人事務局長（理事長代理）のご参加を頂き、思いを一つにした同窓生21名は学院創立者ミス・カートメル宣教師縁の地ハミルトン市と生誕地ソールド市にて桜植樹と記念碑の贈呈を行うことが出来ました。およそ3年半の歳月をかけて進められた〈桜プロジェクト〉—ありがとうを桜に託して— はここに一旦の終結を迎えました。その経緯をここに遺す機会を与えられた事に感謝し、このまとめをするなかで、改めて東洋英和に遣わされた140名を超えるカナダ婦人宣教師の尊い働きと信仰を末永く伝えて行く大切さを感じています。

#### 〈桜プロジェクト〉のはじまり

このプロジェクトは学院創立125周年を記念して発刊された『カナダ婦人宣教師物語』に感動された同窓生評議員の松岡裕子様が、宣教師の先生方の尊い働きに感謝を表すために日本の桜をカナダに寄贈したいと初穂を学院に献げられた事に始まります。

松岡様は桜を植える場所は宣教師を送り続けた教会婦人、市民の方に感謝と友好の想いが伝わる憩いの場になれば、と美しい光景が想像できるような具体的なご希望があり、同窓会にこれを実現する方法を委ねられました。母校の礎を築いた宣教師の先生方の「物語」は、深い感動と、同窓生に英和に学ぶことができた感謝の気持ちを思い起こすものでしたので、この素晴らしい発案は多くの同窓生、在校生に賛同願える事と確信しました。しかし、すぐにこの夢のような計画が実現できるのかと言う不安も重く大きく広がって行きました。

#### 〈桜並木プロジェクト〉が

#### 〈桜プロジェクト〉に

2011年1月同窓会役員会においてこの発案を検討した結果、実行委員会を同窓会内部におくのではなく枠にとらわれない組織で行う事が相応しいとし、支援協力と同窓会HPの利用を承認しました。

まずこの計画を同窓会推薦評議員が発起人となり、同窓会だけの活動ではなく学院として広げた活動になる事を願い2011年2月27日の学院評議員会で〈桜並木プロジェクト〉を発表し理解協力を仰ぎました。『カナダ婦人宣教師物語』刊行に尽力された学院関係者、同窓会関係者に賛同者として協力を依頼、また学院、楓の会、同窓会の3者の協力を得る事ができました。そこでこれを明記したチラシでプロジェクトメンバーの募集と募金の開始を知らせることを決定しました。

発起人：石井摩耶子・田中かおる・平尾良子・藤村真弓・松岡裕子・松本幸恵

（同窓生 五十音順）

賛同者：有賀誠一（元カナダ合同教会牧師）・石川和子（元同窓会会長）・伊勢紀美子（元



〈桜プロジェクト〉募金を募るチラシ

本学大学教授・五味澄子（元同窓会会長）・佐藤順子（元高等部長）・芝 恭子（本学名誉教授）・堀口雅子（元学院評議員）

ところがチラシの校正に忙しく動き始めた矢先、3月11日東日本大震災が起きました。津波被害、原発事故と日本中が非常事態のなか、募金活動開始の声を挙げるのも憚られました。静かに粛々と進めて行く姿勢を決めプロジェクトの名称を〈桜プロジェクト〉と変更して正式にスタートすることになりました。

〈桜プロジェクト〉実行委員会

メンバー：発起人（石井摩耶子・田中かおる・平尾良子・藤村真弓・松岡裕子・松本幸恵）  
＋佐藤順子、濱田信子（同窓生）、朽木久子（元本校教諭）、安中珠世（同窓生）

幸いな事に最大の課題である現地カナダでの仲介役を、不思議なご縁から東洋英和と繋がり、『カナダ婦人宣教師物語』の英語版翻訳に協力下さっていた有賀誠一先生（カナダ合同教会隠退牧師）が引き受けて下さることになりました。海外同窓会支部のカナダトロント支部代表の柴谷栄子様にも現地の様子などを伺い、カナダの地でいつか咲く桜を委員一同祈り願いました。

以下、経過報告を委員会議事録から抜粋します。

【第1回実行委員会（2011年5月27日）】

東洋英和に遣わされた宣教師の優秀で独立した精神性、神に仕える者の自覚的な生き方に、カナダからの宣教師派遣が終了した今もこれを学び、受け継ぐためにもこのプロジェクトの意義があることを確認。

カナダへの桜苗木輸出禁止令（2011年4月より）、トロント日本総領事館管轄の「サクラプロジェクト」（希望地に桜の植樹）の終了と幸先の悪い状況下であったが、募金を呼びかけるチラシを作成。同窓会総会、楓の会講演会等で配布し、プロジェクトメンバー募集をHP、学院報「楓園」に掲載。

【2011年 夏】

現地ハミルトン市長に有賀誠一牧師とセンチナリ教会元牧師のアーウィン牧師が面談下さったところ、桜寄贈の件を喜んでお受け下さるとの明るい情報を得、発案者松岡裕子委員の原案をもとに親書を作成。学院関係者の「英和のルーツを訪ねる旅」に託す。7月31日有賀、アーウィン両元牧師、スローンセンチナリ教会牧師、

ミス・カートメルのご親戚カーゴ夫妻、クロスご夫妻の同席を得て市長代理チャップマン女士に手渡される。

【2011年 秋】

山梨英和、静岡英和両姉妹校同窓会からも快く協力の同意を得る。

募金件数 57件、総額 256,500円

学院広報「楓園」No.67が〈桜プロジェクト〉を特集とすることになり、有賀誠一牧師の来日に合わせ、座談会を開催。「カナダに桜でご恩返し」と題しそれぞれが宣教師の働きとスピリットに込める熱い思いを語る。

【2012年 1月】

候補地とされているセンチナリ教会南側の再開発地の交渉が市側で検討され現地では公聴会等具体化して交渉が開始される。

募金者に対してお礼と現状の報告を葉書で郵送。プロジェクトを学年会、クラブOG会、東光の集いなどで紹介

「楓園」No.67〈桜プロジェクト〉特集号 発行（2012年2月7日）

【2012年 春】

募金件数 167件、総額 3,700,500円。

「楓園」効果で同窓生だけでなく、在校生、その保護者、教職員に賛同者が広がる。募金目標額を500万円とする。DVDを製作し、同窓会クリスマス礼拝続いて学院理事・評議員会で発表、湘南支部同窓会の他、学年会、楓祭、東光会の部屋等に貸し出し。

【2012年 秋】

有賀先生より朗報一候補地が変更となり、ハミルトン市郊外のダングス地区にある公園が有力地として浮上。桜は現地で相応しい種類が調達可能。



学院報「楓園」No.67 2012年2月7日発行

## 【2013年】

カーゴ夫妻がミス・カートメルの生誕地であるソロルド市にも桜植樹を切望されていると相談があり、費用の一部を廻す事で出来る範囲で、との条件でこれを承認し市との調整を一任。候補地の墓地については意見交換を重ねる。

「カートメルウェイ」と名付けられた桜並木がソロルド市営墓地の中央に完成。ソロルド市へ苗木代カナダドル \$ 5,830を送金。

募金額はほぼ目標額の4,936,000円まで到達。

植樹された場所への旅行計画を開始。

## 【2014年 春】

現地での有賀先生、関係者の方々のご尽力により両市での式典開催が決定。直ちに、学院からの代表参加を願い出、旅行日程の調整、準備（セミナーの開催、青山墓地宣教師墓前報告、カナダ大使館挨拶等）に集中。桜植樹式典への招待状が、学院代表と実行委員会へ届く。桜の維持経費としてハミルトン市にカナダドル \$ 10,000、ソロルド市に同 \$ 2,500を小切手にして式典でお渡しするなどを決定

### 〈桜プロジェクト〉セミナーの開催

テーマは「『カナダ婦人宣教師物語』—再考—」。プロジェクトの原点であるこの物語の感動を再び心に呼び戻し、宣教師の墓参を取り入れた旅行計画をより有意義なものとしたいとの思いにより喫緊の日程の中で実現。

この時点で募金件数 253件、総額 5,065,000円になり、目標額は皆様の協力によりついに達成されました。

第1回 3月24日（月）：講演「カナダメソジストミッションと東洋英和女学院」深町正信院長先生、「『カナダ婦人宣教師物語』日本語・



〈桜プロジェクト〉第7回実行委員会 2012年10月19日  
前列左より：朽木久子、有賀誠一、松岡裕子、佐藤順子  
後列：松本幸恵、田中かおる、石井摩耶子、濱田信子、  
平尾良子、安中珠世（敬称略）

英語版発刊をめぐって」谷川祐子氏。参加者46名。

第2回 4月19日（土）：講演「宣教師の先生方の思い出」芝恭子先生、「東洋英和の礎を築いた宣教師」山本香織小学部長。参加者37名。

『カナダ婦人宣教師物語』の発刊に関わった先生方から直接お話を聞く機会は多くの発見と示唆が与えられ英和に連なる幸いを実感。両日とも講演後旅行の説明会も実施、ほとんどの旅行参加者が共通の意識で出発する事が出来ないまました。

### カナダ大使館表敬訪問と青山墓地宣教師墓参

5月29日

カナダ大使館を訪問し、東洋英和からカナダにご恩返しのお花を送る〈桜プロジェクト〉の趣意書と旅行計画書をお渡しする。その後、青山墓地に日本を終焉の地とされた宣教師の先生方に〈桜プロジェクト〉の報告と墓参。2週間後に控えたカナダへの旅を祈念しました。

### カナダ桜植樹記念旅行 6月13日～19日、21日

実行委員からの参加者は、朽木久子委員、田中かおる委員と松本の3名でした。〈桜プロジェクト〉完成を目指し、松本が旅行の団長を引き受け、学院代表深町正信院長、西田哲也理事長代理のご参加を感謝しつつ21名の参加者とともにカナダへ旅立ちました。

ソロルド市、ハミルトン市の記念式典、植樹式参加とトロント近郊の宣教師の墓参がメインに組み込まれた日程は、カナダ観光局勤務の同窓生半藤将代様、現地旅行社、JTB社のおかげでとても密度の濃い楽しいものでした。

20歳代から80歳代までの参加者は年令を超えてすぐに打ち解け、式典で披露するヴォーリーズ作の英語校歌の練習はトロント着後から重ねられ有賀先生のフルートに合わせ美しいハーモニーが生まれたのは感動でした。本番に強い英和生パワーはどこでも発揮され、現地の方々との交流もしっかりとされていたのは宣教師の先生方の英語の力だったのでしょうか。お元気なブラウン先生、イエドン先生、ラモント先生とも再会できました。そしてミス・カートメル、ミス・ハミルトン、ミス・スクルトン、ミス・マシューソン、ミス・サンダース、ミス・ケギーの墓前では有賀先生からそのお墓を発見したときのお話を伺い、自然な形で代表者が捧げる祈

りの時は、時空を超えて墓前に用意した肖像写真の笑顔そのものに出会えたようで言葉に尽くせない深い感動に包まれました。皆の先頭をきって水を用意し、墓石を綺麗にし、市場、街やホテルで調達した花々を飾る人、心に大切に仕舞われていた思い出の先生の名を呼びかけながら祈りを捧げる人、それぞれが宣教師物語の続きを自分の人生のなかで綴っているのだと思いました。

センテナリ教会での聖日礼拝ではミス・カートメルを送り出した礼拝堂に立ち往時を偲び、英和関係者が寄贈した多くの品々を見ながら、東洋英和のミッションの原点としてあり続けて欲しいと祈りました。

16日にソロルド市で式典が行われました。先立って見学した市営レイクビュー墓地内カートメルウェイの名を冠した桜並木の数本の木に八重桜が咲き残り私達一行を待っていてくれました。カーご夫妻によって建てられた記念碑に桜の由来が記され何時の日か桜のトンネルになる事を願いました。室内会場で市長からの歓迎挨拶、有賀先生によってこの計画の経緯説明があり、これに代えて深町院長、西田理事長代理が感謝の挨拶、松本が発案者松岡裕子委員のメッ

セージを読み維持費目録を渡して記念品の交換が続きました。昼食後はミス・カーの案内でソロルド周辺のカートメル家ゆかりの地を見学し、爽やかな風の中この地から遠く海を越え日本へ渡った一人の婦人伝道者が生まれたことに思いを馳せました。

17日に行われたハミルトン市主催の記念植樹式は夏の陽射しが照りつける日となりました。会場のセンテナルパークにはテントが用意され東洋英和にご縁のある人々、教会関係者、トロント日本総領事館、現地市担当部署、新聞社など150名くらいの出席で入りきれない状態でした。

両国の国旗と市の旗が閃くなかでの式典は、130年前ミス・カートメル以降カナダの人々が東洋英和に送り続けた宣教師に対する感謝の思いを今桜に託して共に覚えて行こうとする理解に深く根付いたものでした。有賀先生が私たちと共にして下さった想いがカナダの人々に伝わり動かして行った事を実感しました。式典で深町院長が「これからのカナダと東洋英和との新しい関係が親しみを持って継続する事を願う」と挨拶され、両市においても感謝と共に良い友好関係の継続を望まれた事は参加できなかった



ミス・ハミルトンとミス・ハードの墓前にて



式典プログラム  
左：ソロルド市記念碑除幕式  
右：ハミルトン市記念植樹式



ソロルド市の記念碑



6月16日 咲き残っていた桜とカートメルウェイ

メンバーと募金に協力して下さった皆様と分かち合いたい喜びでした。有賀先生とご友人が演奏された桜変奏曲、カナダ在住の同窓生と共に両国語で校歌を天まで届けと歌ったことは、ハミルトン市センテニアルパークの37本の桜とソロルド市カートメルウェイの60本の桜が花を咲かせる春が来るたびに思い出す事でしょう。

翌日はただちに帰国する者、オプションルツアーでプリンスエドワード島に渡る者等と別れ、それぞれ予定通り無事帰国いたしました。

### おわりに

書き記したい事は尽きませんが、特に有賀先生には「おんぶにだっこ」とお互いに揶揄しながらも「有賀先生の存在は天啓です。」(座談会での芝恭子先生の言葉)のとおりで感謝してもきれません。先生のユーモアと忍耐こそが〈桜

プロジェクト〉を終始支えて下さいました。また全行程の写真担当として同行して現地邦人向け情報誌にプロジェクトを紹介し、アルバムを作って下さった平田誠・千恵子(同窓生)ご夫妻にも大変お世話になりました。

そして素晴らしいプロジェクトに参加できた幸いに感謝し、常に支えて下さいました学院、広報室、史料室の皆様にお礼を申し上げます。何より神様がこのプロジェクトを守り導いて下さった事に深く感謝し、報告と致します。

\*なお募金は桜維持のため継続しています。管理、桜見守りを続けますので機会を見てお知らせさせていただきます。また〈桜プロジェクト〉セミナーの講演集および植樹記念旅行の報告書を別冊に纏めたものは史料室に保管されています。

(前東洋英和女学院同窓会長  
〈桜プロジェクト〉実行委員)



6月17日 ハミルトン市 記念植樹のようす  
左より：深町正信、松本幸恵、シンシア・グラハム(司式者)、イアン・スローン(センテナリ教会牧師)、ラス・パワーズ(市会議員)、有賀誠一(敬称略)



植樹1年後の今春、美しく開花したハミルトン市センテニアルパークの桜(2015年5月5日)



ハミルトン市 式典後の記念撮影(センテニアルパークにて 後ろの若木が植樹された桜)  
左端：ウェイン・アーウィン元センテナリ教会牧師 右端：ミセス・キャサリン・カー

## 〈資料紹介〉 26

### 〈桜プロジェクト〉カナダ旅行にて入手した史料

酒井 ふみよ

カナダでは、多くのハミルトン市やソロルド市の市民の方々が歓迎してくださり、教会やレセプションの式場で温かい交流を持つことができました。

そこでいくつもの寄贈を受けたのが下記の(1)～(8)です。

特に、(1)・(4)は学院として現地を訪問したことへの記念としてご寄贈くださったものです。予期せぬ素晴らしいプレゼントに驚くとともに感動しました。

#### — 受 贈 品 —

##### [書 簡]

(1) ミス・カートメル自筆およびミス・カートメル宛ての書簡 19通

ミス・カートメル自筆の書簡は14通でほとんどは1895年ごろのもの、カートメル宛ての書簡はミス・スクルトン、ミス・キラム、ミス・ガヴェンロックなどからでほとんどは1930年前後。

これらは、私たちがカナダに桜の植樹を行った記念に、サザランド家（ミス・カートメルと親戚関係）の子孫であるドン・クロス氏が寄贈してくださいました。ぎっしりと筆記体で書かれた書簡の解読は、今後の史料室の新たな仕事として取り掛かることになるでしょう。時間がかかりそうですが、きっとあらたな発見があることと期待されます。

##### [書 籍]

(2) Marilyn Färdig Whiteley : Canadian Methodist Women, 1766-1925 Marvys, Marthas, Mothers in Israel, Wilfred Laurier University Press, 2005

ごく普通の女性たちの宗教的な活動—巡回説教師へのもてなし、日曜学校で教えることや奏楽を担当すること、女性宣教師を選び支援したこと、移民の女性たちに裁縫を教えたこと、機会があれば信仰の表明をしたこと—これらが女性たちの役割を以前よりも広げたことを広範囲にわたる資料から読み解いています。そして宗教的な実践に焦点を当てたことにより、19世紀から20世紀初めのカナダ社会の形成を促進した

メソジストの運動について、大局的な観点を提供しています。

(3) Andrew Mark Eason : Women in God's Army - Gender and Equality in the Early Salvation Army, Wilfred Laurier University Press, 2003

救世軍は男女平等をうたっていたにもかかわらず、第一、第二世代において公私ともに実践されなかった背景を分析し、人々の平等獲得への奮闘を描き出しています。

##### [物 品]

(4) ミス・カートメル肖像の印刷用凸版

4 × 4 × 2.5cm

研究者であり、カナダ合同教会のアーカイブで働いていたホワイトレーさん（(2)の著者）が、東洋英和のために、とご寄贈くださいました。ご用済みで廃棄予定だったのを取って机の上に飾っていたものだそうです。ミス・カートメルがWMSの研究をする方にとっても尊敬する大切な方であることを物語っていると思います。4月より学院資料展示コーナーに常設展示しています。

(5) Martha Cartmell and Toyo Eiwa Jogakuin :

ハミルトン市 :

桜の植樹が行われたダングスの公園に置かれた銘板と同じ。

この銘板には、創立翌年のミス・カートメルと生徒たちの写真と合わせ、現代の東洋英和とカナダとの交流を表わす写真として、2009年にプリンスエドワード島の観光大臣が本校を訪問された時の正面玄関での記念写真が使われています。

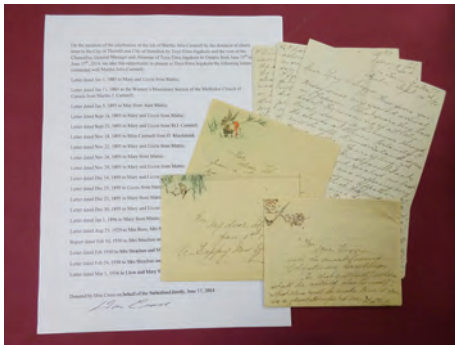
(6) マーサカートメル並木道のカラーパネル

6枚 :

ソロルド市営墓地のカートメルウェイ（2013年に植樹した桜並木）を2014年開花時に撮影したカラーパネル 5種

(7) 「Water Falls of Hamilton "SPRING" "AUTUMN"」 :

ハミルトン市民の写真家から今回のカナダ旅



(1)書類類 (一部)  
左はクロス氏作成リスト



(8)~(11)カナダ合同教会アーカイブズで得たデータと、プリントアウトした資料



(4)ミス・カートメル  
肖像の印刷用凸版  
(ホワイトレーさんからの寄贈)



(5)Martha Cartmell and Toyo Eiwa Jogakuin (銘板)

行参加者全員に贈られたポスター。ハミルトン市にある滝の写真

## 一資料収集 [データ]

6月19日、植樹式を終えた後トロントにあるカナダ合同教会のアーカイブに2日間通って資料を閲覧し、今後のために資料検索に役立つ参考資料のリストの収集をしました。

(8)The United Church of Canada ARCHIVES  
2014年6月19・20日撮影資料：DVD

(9)ANNUAL REPORT of THE WMS 1925-1961 [EXTRACT]：製本冊子

WMSの母体であったカナダのメソジスト教会が合同教会となった1925年から終刊を迎える1961年までのWMSの年次報告書から、海外派遣宣教師たちの報告のうち、日本、東京、甲府についてのみの抄録です。戦時中の1940年から

1945年までは日系人収容所におけるミス・ハミルトン、ミス・グリーンバンクなどが報告をつづっています。1924年まではマイクロフィルム化されており、本校史料室で所蔵しています。その後のもののマイクロフィルム化の計画はないということでしたので、さしあたり特に必要そうな箇所をデジタルカメラで撮影してきました。(9)は(8)のデータをプリントしたもの。

(10)The United Church of Canada ARCHIVES：  
WMS Finding Aids：DVD：

(11)FOR UCC ARCHIVES RESEARCH：ファイル：

カナダ合同教会アーカイブズにある日本に関する資料を探索するためのツール。UCC Archives Policy and Procedure Manual / FINDING AID 90, 137。現地収集のほか、アーキビストのDe La Pazさんがメールで送ってくださったもの。(11)は(10)をプリントしたファイル。

(史料室 囑託)

## 〈思い出の先生がた〉29 村岡花子先生

### 村岡花子先生の思い出

#### 大森めぐみ教会のご縁

私の母は1927（昭和2）年に創立された大森めぐみ教会で、村岡花子先生の妹さん、安中梅子さんとともに、当初から日曜学校の教師をしていました。村岡家をご近所でしたから、親しくお交わり頂き、かるた会などにお誘いを受けると、夜遅くまでお邪魔していたそうです。私も3歳まで大森で育ちましたが、父の転勤で関西に移り、四国で終戦を迎えました。

母は昔話を語るのが上手で、私たち4人の子どもは、毎晩母の膝を囲み、お話を聞くのを楽しみにしていました。大森めぐみ教会で教えるを受けたためでしょう。母が多忙な時は、長女の私が代役を勤め、時には即興の話で弟妹たちを喜ばせたものです。

私は読書好きで、友人たちと本の回し読みをしていました。小学6年の頃『パレアナ』に、高校1年で『赤毛のアン』に出会い、途中で本を置くことができないほど没頭しました。高校卒業後の進路を相談すると父は幼児教育が最も適していると勧めてくれ、東京の従兄から情報を得て東洋英和女学院短期大学保育科に入学することになりました。昭和29年春、四国から上京して青楓寮に入り、新しい歩みを始めたのです。

#### 短期大学保育科にて

入学して最初の「児童文学と言語指導」の授業で、母から聞いていた「村岡花子さん」が教えて下さることを初めて知りました。先生は、和服をほんの少し抜き衣紋ぎみにお召しになり、色白のお顔を紅潮させて急ぎ足で教室に入って来られました。

最初の授業は「ことば遣いについて」話されました。日本語の美しさを大切にといわれ、大の大人が「ヤンなっちゃうよ（嫌になってしまうよ）」などというのは大変聞き苦しいことだと話されました。私は上京して間もなかったのに、この東京弁は真似しないよう、気をつけなければと肝に命じたものです。そして美しい言葉が使えるように意識したいと思ったのです。

教室をお出になる先生を廊下<sup>あそかい</sup>でお待ちして、「私は大森に住んでおりました朝海栄子の娘、長崎祐子と申します」とご挨拶しました。「あら、



村岡花子先生

栄子さんのお嬢さん？」と、先生は驚いて私をごらんになりました。

私の記憶には六十年も前の先生のお姿、お声、お話の内容が鮮明に残っており、甦ってきます。

先生の授業を二、三ご紹介しましょう。予めお断りさせていただきますが、私は先生の講義のノートはとっておりません。それは、筆記している間に、今、聞こえる大切な一語一語を聞き漏らしてしまうことを恐れたからなのです。

#### ・ こどもに聞かせるお話

イソップ物語の「狼と少年」の話をして下しました。少年が村人をだまそうと、森の中から「オオカミが出たァー」と叫んで出てきますが、決して大声を出さないこと。顔の表情は緊迫した様子でも、声はしぼるように。聞き手は大きい声より小さい声の方が集中して聞くことができ、効果は更に大きいと。

先生は「お話の引き出しをたくさん用意しておきなさい」と言われました。

#### ・ こどものために薦めたい絵本

『みんなの世界』マンロー・リーフ作・絵（岩波子どもの絵本）

当時、こどものための質の高い絵本は数えるほどしかありませんでした。『みんなの世界』は幼児を一人前の人間として捉え、こどもたちの住む社会の仕組みや、生活のルールを示し、一人一人はどういうことを心がけなければならないかを描いています。ユーモラスな太い線で描いた「おらがくん（自分勝手な子）」はみんなの人気者でした。先生の子どもを見る目、こどもに対する姿勢がよく分かります。

## ・ 私たち学生への推薦図書

『O・ヘンリー短編集』（新潮文庫）

どんなに短い物語でも、サスペンスがなければならぬといわれ、この本を推薦されました。実に短い物語ですが、その一つ一つ、どれをとっても情景描写や人びとの心の機微が巧みに描かれています。物語の進展に惹かれ、読み進むうちに、全く予期しない結末を迎えるのでした。珠玉の短篇集です。

・ 一年も終りに近いある休講の日、次のような課題が出されました。新約聖書マルコ10：13～16をもとに、幼児に聞かせるお話を書くというものでした。（幼児たちを祝福するイエス）

自分が書いたものは記憶しておりませんが、自分でも気持ちよく書きましたので、次週には講評を頂けるものと期待しておりました。が、その後も休講で、残念なことに、これを最後に一年の授業は終わってしまったのです。

卒業後、私は子どもたちのために聖書の物語を書く機会が多くありました。絵本『ゆうちゃんのみきさーしゃ』（福音館書店）はロングセラーとなりましたが、先生に講評をいただきましたと心残りに思ったものです。

昨年、思いがけず、NHKの朝のテレビ小説に村岡先生の半生を描いた「花子とアン」が登場しました。私はミス・ハミルトンをはじめ宣教師館の先生方や、青楓寮の友人たちをドラマに重ねて思い浮かべていました。村岡先生は勿論、先生方お一人びとりの授業内容まで蘇ってきました。

ある日、史料室の展示を拝見した後、自分が学生だった頃、村岡先生はどんなお仕事をしておられたのか伺ってみました。何故休講が多かったのか、知りたかったのです。すると、とても丁寧なお答えを頂くことができました。

村岡花子先生は翻訳家として、昭和27年に『赤毛のアン』、29年に『フランダースの犬』を刊行し、30年に産経学園理事長、日本児童文芸家協会理事に就任しておられます。また27年には、病いのため亡くなったご子息道雄さんを記念して「道雄文庫ライブラリー」を開設しておられます。

また、東洋英和のために、宣教師の礼拝説教の通訳、保育科の講義、東洋英和女学院の評議員をされていました。

以上は児童文学者としての先生のお仕事ですが、私達が全く存じ上げなかったお働きがあり

ました。国の戦後の荒廃から新しい近代国家に建て直すため、種々の省庁の囑託や委員をしておられたのでした。

私が先生の講義を受けた昭和29年に限定しただけでも、文部省囑託や委員として、教育の機会均等を推進する教育改革に尽力、国語調査委員、純潔教育委員、教育映画審査委員等の働きをしておられます。また、通信省行政監察委員、厚生省社会保険制度調査委員、司法省人事調停委員等々、多くの委員を引き受けておられます。地方に講演に行かれたり、ヘレン・ケラーの通訳としても活躍なさいました。何とお忙しかったことでしょうか。あの時代に、豊かな見識をもった人材、特に女性は稀有とってよかったですのではないのでしょうか。

先生は、東洋英和でリベラルな全人的教育を受け、「敬神奉仕」の精神により、その一生を人のため、社会のために喜びをもって尽くされたのでしよう。

卓越した英語力と上品で美しい日本語によって翻訳された数々の本が今も日本中の人々を魅了し続けております。感謝をもって。

文 村上 祐子（1956年短期大学保育科卒業  
元東洋英和幼稚園教諭 元評議員）

## 村岡 花子 先生

### -略歴-

1893年 6月21日 山梨県甲府市に生まれる  
小林光泰牧師より幼児洗礼を受ける  
1903年 東洋英和女学校予科1年に編入学  
1913年 同高等科卒業  
1914年～5年間 山梨英和女学校で教える  
1948年～東洋英和女学院同窓会副会長に就任  
1951年～学院理事および評議員を務める  
1952年 『赤毛のアン』を翻訳出版、「道雄文庫ライブラリー」を自宅に開設  
1954年 4月～東洋英和女学院短期大学保育科講師となる  
(担当：児童文学と言語指導)  
1968年10月25日永眠（75歳）  
翻訳書、著書多数

### 《史料室よりお知らせ》

今般村岡家より貴重な資料を多数寄贈されましたので、本部・大学院棟1階の学院史料展示コーナーを改装し、4月15日よりあらたに「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」として一般公開しています。今後常設・企画展示のほか、研究に活用していきたいと考えています。

[2014年10月-2015年3月 画像提供]

- ・画像提供—○不動産関係会報誌「アットホームタイム」12月号 港区特集のため 現校舍外観1点 ○ドキュメンタリー「ジャパンへ NHK「ファミリーヒストリーモト冬樹編」のため ラージ夫妻など3点 ○国土計画協会へ 機関誌「人と国土21」11月号のため 現校舍外観1点 ○インファス・ドットコムへ NHK番組のため 1950~60年代の制服 ○女子聖学院へ 生徒論文掲載のため 勤労働員 ○人人FILMSへ 映画「ヘンリミトワ禪と骨」のため 永坂孤女院2点 ○小学部「ぎんなんだより」後期号のため 校歌関連 鶴沼幸・富岡正男など8点
- ・画像提供 (村岡花子・恵理氏関連) —○賀川記念館へ「花子とハル」展 (徳島県)のため ○「日経ビジネス アソシエ」12月号 村岡恵理氏連載記事のため ミス・ハミルトン ○港区麻布地区総合支所へ「ザ・AZABU」No.30・31麻布の軌跡 前・後編のため 8点 ○カドカワ「毎日が発見」誌1月号のため 2点 ○河出書房新社へ『女流作家のモダン東京』のため 8点 ○新雨出版社へ 台湾版『アンのゆりかご』のため 2点 ○村岡恵理氏へ 光文社 女性自身 ネット配信「花子の翼」連載のため ヴォーリス校舎画像13点 ○山梨県教育委員会へ 山梨近代人物館展示のため 3点 ○桜新町教会へ 村岡恵理氏講演会ポスターのため

主な寄贈資料

- \*「桜プロジェクトカナダ訪問ツアー」アルバム (平田誠氏作成)、式典記録CD・DVD (Rev. W.Irwin作成)、ダングスの公園に置かれた記念の銘板複製、カートメル並木道のカラーパネル 6枚
- \*卒業證書 (1946年高等部)、“The Bekka Class” (別科卒業生による随筆)、保育證書 (1947年幼稚園)
- \*「東光會新聞」第一号 (1950.3.15発行)
- \*“Canadian Methodist Women,1766-1925 Marys, Marthas Mothers in Isrel” by M.F.Whiteley
- \*「What's The Nichibi Spirits?」「文化の街大森を歩く」DVD
- \*シャーリー M. ジュティーン先生よりキリスト教保育関係書、元短期大学教員著書、記念品 (アクセサリー、食器等) 多数 計104点
- \*『村岡花子エッセイ 美しく生きるために』主婦と生活社、『赤毛のアンの名言集』講談社、『花子と白蓮』宝島社、『女流作家のモダン東京』河出書房新社
- \*『安妮の揺籃』(台湾版『アンのゆりかご』)
- \*「連続テレビ小説 花子とアン」台本 第1週~最終週、(Blu-ray) 完全版1・2
- \*『朝河貫一資料』山岡道男・山内晴子 (高等部卒) 共著 早稲田大学アジア太平洋研究センター
- \*『キリスト教保育125年』キリスト教保育連盟  
その他 他大学年史・紀要多数

主な移管資料

- \*『あるケアのかたち』鈴木正子 (大学院修了者) 著 すぴか書房 / 『体を語ろう、女から女へ』丸本百合子 (高等部卒) 著 廣済堂出版  
以上 広報室より

購入資料

- \*『実践アーカイブ・マネージメント』朝日 崇著 出版文化社
- \*ハートのキーホルダー、楓ちゃんキーリング (中高部母の会製作)
- \*「東京都公文書館所蔵資料」東洋英和幼稚園、師範科関連 (コピー)

製作資料

- \*媒体変換 (オープンリールまたはカセットテープなどからCDまたはDVDへ)  
映像：1958年度夏期修養会、1961年度中高部運動会、1980年沖縄学習旅行、  
音声：創立90周年記念式、花の日礼拝、長野彌先生送別会、1972年小学部卒業記念 (合唱)
- \*東洋英和女学校初期スクラップブック電子化データ
- \*「ANNUAL REPORT OF THE WMS 1925-1961 EXTRACT」  
「FOR UCC ARCHIVES RESEARCH」

☆「東光會新聞」第一号 (1950.3.15発行) を初めて入手しました。二号以降をお持ちの方がございましたら是非お知らせください。

〈お知らせ〉

史料室では、学院の歴史や学生生活の様子を伝える資料、写真、記念品等を収集しています。ご家庭にあってご不要のものがございましたら、ご寄贈いただくと幸いです。また、卒業生および教員の著作も収集しています。

お問い合わせ先は下記のとおりです。  
東洋英和女学院史料室 (法人事務局内)  
Tel 03-3583-3166 (直) Fax 03-3583-3329  
E-mail : archive@toyoeiwa.ac.jp